

## 新しい先端形状を有したダブルルーメンカテーテルの特性(第2報)

第57回 大阪透析研究会

第47回 日本透析医学会学術集会

丸山禎之・和田 茂<sup>1</sup> / 南 美枝子・脇川 健・山田明子・佐々木敏作<sup>2</sup> (大阪掖済会病院 透析室<sup>1</sup> / 内科<sup>2</sup>)

【目的】血液浄化療法のブラッドアクセスとしてダブルルーメンカテーテル(DLC)は広く用いられている。しかし種々の問題点があり、我々は以前よりエンドホール形状であり、かつシースを必要としない先端形状を有する DLC (Niagara™) が有用であると報告してきた。今回さらに改良した Niagara Slim-Cath™ (Slim) の特性について評価した。

【方法】サイドホール型、コアクシャル型、Niagara、Slim の4種の DLC を用い、in vitro にて以下の実験を行ない比較検討した。1) DLC 内に形成された凝血塊の除去試験 2) DLC 挿入抵抗試験 3) 血流量と返血圧の変化 4) 設定流量と実測流量の関係。

【結果】Niagara、Slim では DLC 内の凝血塊は完全に除去できた。挿入抵抗は Slim は Niagara より最大 120gf から 102gf へ低減した。返血圧は Niagara より Slim はやや上昇していたがサイドホール型、コアクシャル型より抑えられた。実測流量は Slim では 300ml/min まで十分確保された。

【結論】Slim は非常に有用な DLC である事が確認された。